



【上期】学校評価 結果の考察



昨日、第2回黒肥地小学校運営協議会を開催し、上期（4～9月末）の学校評価結果の概要について説明し、意見交換を行いました。

実際の授業で子どもの様子を参観された委員からは「学習中の姿勢がよくなってきた。」「ハキハキと話していて気持ちがいい。」「子どもの表情が明るく、楽しんで活動している。」など褒めていただく感想が多くありました。

会長からは「少しでも学校の教育活動に協力していただく方々が居るのであれば、それは、意義

があること。これからも、授業を手段として子どもたちに『生きる力』を付けてほしい。」とまとめいただきました。以下に学校評価の結果と分析等を紹介します。

「高評価」が多かった項目

内容	分析等
いじめ・不登校はいつでも起こり得るとらえ、欠席の児童や不登校傾向の児童への積極的な対応ができたか。(愛の123運動+1)	児童の欠席状況や友達関係、家庭環境等も踏まえて、家庭との連絡を密にとり、対応にあたることができている。今後も、アンテナを多く立て、組織としての対応を行っていききたい。
学校行事における安全指導及び施設設備の点検は徹底できたか。	毎月15日を安全点検の日に設定し、担当箇所をローテーションしながら、目で見ただけでなく触ったり動かしたりしながら確認を行っている。今年度は、安全点検を掃除の時間に設定し実施している。児童は、無言清掃をしながら、職員の点検の様子を垣間見ることになるので、職員の真剣な姿から安全の重要性への意識も高まってきていると感じられる。

全対象者(児童、保護者、職員)が3以上の評価(各項目4.0満点)

内容	分析等
毎月の生活目標を学級化し、「是は是、非は非」の積極的生徒指導が実践できたか。	毎月、学校全体の生活目標を軸に、学級として取り組むことを具体的な形として提示している。また、朝の会や帰りの会等を活用して取組状況を確認したり、月末に振り返りを行って、自分たちの成長や課題を明確にする時間を大切に積み重ねている。また、校長の「ありがとうの合言葉」を全職員が意識して、児童に投げかけていることで、「是は是、非は非」等の意識・態度の向上につながっている。
安心と信頼にあふれる、高め合う人間関係(含学級)づくりに努めているか。	学校や学級が安心できる場所、安心できる人間関係づくりが推進できている。今後も、児童一人一人の表情や背景、成長や変化を全職員で把握し、情報共有(児童理解タイム、いじめ・不登校対策委員会)しながら、健全な成長を図っていけるように組織として対応していく。重点指導項目でもあるので、引き続き心のアンケートでの小さなつぶやきを拾ったり、アイチェック、QUチェック等の客観的なデータを活用したりしながら対応をしていく。
危険予測学習を行い、自分の命は自分で守るための方法を考えさせる指導ができたか。	避難訓練(不審者・火災・地震)において、課題や専門機関からの指導に基づき、前年度踏襲にならないような計画を立てて実施している。1学期は、町の防災課や県危機管理防災課を招き、防災学習を行った。職員研修においても、救急救命法(AED、アレルギーへの対応)を行い、児童の命を守る意識と体制づくりを行っている。
一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うことができたか。	学級や個人の実態に合わせて授業展開や教材の工夫を行っている。また、4人支援員が個性をよく理解しながら支援を行っていることが、この高い評価につながっている。支援員からの情報は大変貴重であり、指導に大変役立っている。マンパワー不足をなんとか補えているのも、支援員の存在が大きい。

保護者の評価「R6とR7の比較」

内容	分析等
お子様は、適切に食べることや睡眠の大切さを分かっていますか。	R6より0.3ポイント下回った。1、2学期に、メディアコントロール調査(睡眠時間やメディアの使用時間)についての調査を行い、家庭で今の生活を振り返る取組を行っており、結果はよくなってきている。(「ほけんだより」参照) しかし、評価項目内でのポイントは下がっているため、保護者の食事や睡眠、メディアの使用等の基本的生活習慣をしっかり身に付けさせたいという意識が向上しているとも捉えられる。引き続き、家庭と学校が連携して、取組の工夫を行っていききたい。

JRC 青少年赤十字 ～「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標～



本校は、青少年赤十字に加入しています。青少年赤十字（J unior R ed C ross）とは、青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的としています。

また、主体性を育むために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。これは、本校の学校目標「気づき・考え・行動する児童の育成」に合致しています。

JRCでは、子ども達が「注意深い生活」を心がける習慣を養うとともに、自ら自分の生活、または社会の問題やニーズに「気づき」、その原因と解決のための道筋や方法を「考え」問題解決のために具体的な活動を「実行する」ことの大切さを意識づけるのに役立つものとされています。
(<https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/youth/about/>)

気づき	考え	実行する
何気なく生活していると気づかなかったことでも、自分が注意深い生活を心がけると、自分の身の周りで困っている人たちの「声なき声」に気づくことがあります。	手を貸そうと思う相手の人がなぜ困っているのか、相手の身になって考えることにより、相手にとって本当に必要なことが何であるのかを考えます。 もし、自分でよいと思ってしたことでも、相手にとっては役に立たなかったばかりでなく、「ありがた迷惑」になってしまうこともあります。	考え、準備してきたことを実行します。「困った、何とかしなくてはいけないな」と思っても、それを「誰かがやってくれるだろう」で終わらせては何にもなりません。自ら進んで責任を担い、行動を起こすことが大切です。 更に実行した後はそのままにしないで反省し、自己評価をします。そして反省したことを次の機会に活かすようにします。

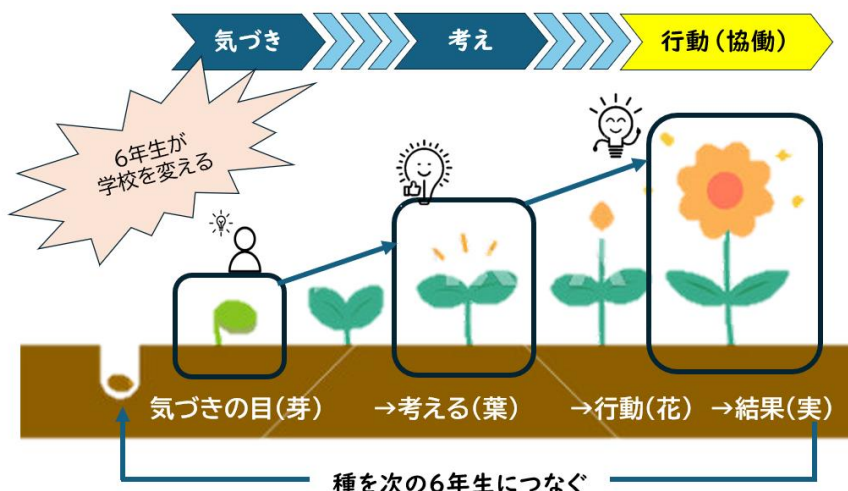
今後は、右の図のような「かがやきプロジェクト」を全校児童に提案し、各学年の発達段階に応じた「気づき」を育てていきたいと思っています。そして「考え」、「行動する」基盤づくりにつなげていきます。

活動の様子については、今後の学校だよりやホームページに掲載していきます。

HP →



黒っ子 かがやき プロジェクト2025 イメージ



創立 150 周年記念式典 **令和8年2月8日(日)** 開催

***** ドローン空撮 令和7年11月11日(火)午後1時11分 *****